

## 1. 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2971400144		
法人名	特定非営利活動法人 信貴山やすらぎ会		
事業所名	NPO法人 信貴山やすらぎ会「グループホームやすらぎ」		
所在地	奈良県生駒郡平群町信貴山2303-7		
自己評価作成日	平成22年8月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kohyo-nara.jp/kai gosip/Top.do">http://www.kohyo-nara.jp/kai gosip/Top.do</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット		
所在地	奈良市登大路町36番地 大和ビル3階		
訪問調査日	平成22年8月27日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然に囲まれた環境で、日中は50畳の広間に集い、毎日カラオケなどのレクリエーションを楽しんでいただきながら思い思いのペースに合わせてゆったりとした暮らしを提供いたします。地元で獲れた野菜を中心に、お年寄りの体に優しい食事作りに取り組み、職員と一緒に野菜の皮むきや盛付など手伝っていただき食事の楽しさを感じていただいております。地域の季節行事や祭事の参加を援助し、ホームの行事を行う際は家族様をお招きして、豊かな社会生活が送れるように自立支援に取り組んでいます。各医療機関の定期往診や受診を支援することで健康維持・増進を図り、気候の良い時期には毎日戸外への散歩を実施しています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

奈良県下有数の歴史的風土、信貴山という場所柄、豊かな自然に恵まれ、四季折々の自然の移ろいは見事な一幅の絵画となり、利用者の心を和ませ、癒しとなっている。事業所の年中行事は多種多彩で、クリスマス会等々のレクリエーション時での職員による仮装は、利用者の拍手喝采を浴び、心に残る行事の一つとなっている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

※セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域社会を意識した理念や介護規範を職員室の目のつく所に掲示し理解するようにしている。利用者が参加する町内の祭事などの手伝いや、町内美化活動に職員が参加している。	「地域に根ざし、地域社会の一員として健康で、楽しく、安心して暮らせるよう家庭的な環境で自立支援を行なう」と謳い、全職員は実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月1回近隣住民が集う草刈り作業のお手伝いなど参加させていただき交流を図っております。	地域住民の一員として自治会に加入。正月は獅子舞が、節分では鬼が事業所内で地域の伝統的な舞い踊りを披露してくれる。千体地藏盆にも毎年欠かさず参加している。事業所内行事に近隣の方々を招待することについて、検討中である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の力を活かした地域貢献は実践されていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議が行えていません。	過去に1回開催、その後は開催していない。	事業所の取り組み状況や改善課題について話し合うことにより、結果として地域の理解と支援を得ることが出来る。サービスの質の向上につながる貴重な機会づくりととらえ会議の目的を踏まえ、開催に向け、工夫されることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の事情を踏まえ施設の移転建て替えについて市町村と相談させて頂いています。	平成24年度実現に向け、事業所の移転・建て替えについて県や町と調整をとっている。また、居室の空き状況を説明、担当者と問題解決に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての職員研修を通し理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	契約書第6条に「緊急やむをえない場合を除き身体拘束その他(甲)の行動を制限しません」と謳っている。職員研修での学びを共有認識とし、理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についての職員研修を通し理解を深め、管理者は不適切な介護が行われていないか、それが虐待に値しないか都度検討会議の中で職員の意見を元に確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員研修を通し日常生活自立支援事業や成年後見制度について研修を通し知り得る機会があります。要支援者の入居者がいない為、日常生活自立支援事業関係者との話し合いは行われていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を元に契約に際し説明させていたいています。不明な点があれば契約後であっても要望をたずね都度対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員間の要望もあり現在ホームページを作成中です。ホームページの内容を検討中で利用者及び家族様の意見要望なども掲示する予定です。	毎月、家族宛に写真を添え、近況報告を行っている。玄関に意見箱を設け、家族からの要望・意見・苦情等を積極的に受け入れる努力をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議に際し代表者代理人と管理者が参加しているため意見が反映されている。	管理者は、朝・夕のミーティング時や日常業務の合間等に、職員から、意見や利用状況・家族の要望等を聞き、話し合っている。	地域密着型サービスの本質・役割を踏まえたサービスの質の向上をはかる為、現場の職員の気付きや意見等を、積極的に運営に取り入れられるよう事業所職員全体での会議の場を設けることが望まれる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は代理人の出向により施設の人事に関し状況を把握し、職場環境整備を加味して建て替えを計画している。長く勤務継続している職員は理事会監事の監督の元やりがいと向上心を持って労働している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	理事会組織監督の元に研修の機会を非常勤職員を含め多数が受ける機会を持てるように職場内研修を効率的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連携のあるグループホームでの実務研修や見学を行っている。同法人下の在宅支援事業所の協力や情報を得てサービスの改善に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族様や本人様からの情報を元に、生活習慣に添って安心できる暮らしが提供できるように、本人様のペースを把握しながら都度傾聴し信頼関係の構築に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居事前調査の段階から、家族様の心配ごとや要望などをたずね認知症介護への理解と関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	適したサービスの利用を案内や情報提供いたします。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と共に楽しく過ごす時間を1日の内に何度と増やすことができるように都度、作業の効率化や業務の見直しを意識して検討しています。長く務めているなじみの職員がいることで安心してもらえています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時間に制限なくいつでも来ていただくことが可能で、各居室も広いため宿泊もできます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	仏閣に近隣するため従前より信仰のある方には馴染みがありお参りされています。	利用者の思いを大切に、電話の取次ぎや手紙の受け渡し、また家族との外出が楽しく過ごせるよう支援に努め、生活の幅が狭くならないよう、また閉塞的にならないように心掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の良い関わりが生きがいに繋がるように配慮して頂いています。時には独りの不満も利用者様全員で聞いてもらうことで各々の意見・提案あり、共同生活をしているという意識を想起していただいています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後要望・相談があれば対応いたします。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的にアセスメントシートを活用し利用者様の意向が判るようにしています。	入浴や食事介助時等日常業務の会話の中から利用者の思いに関心を払い、把握に努め、情報を共有して、サービスに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活習慣、病歴など入居の事前に調査票を家族様に記入いただき介護方法に役立てています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にアセスメントシートを活用し利用者様の状態把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各医療機関と協力し医師の意見や家族様の要望を取り入れ職員会議で検討した内容をプランに反映しています。	介護計画作成には、ケアマネージャー2名が中心となり、職員の意見・利用者や家族の意向を軸に作成されているモニタリングや評価を行い、プランに基いた介護が実践されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録には利用者様の様子がわかるように記入し、塗布薬の実施状況や食事・水分の摂取量など特記し都度作業漏れがないか確認しています。介護業務の連絡帳を作り気付いたことや変更事項など記入し職員間で活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様と家族様がゆっくり過ごしていただけるように要望があれば食事の提供もさせていただいています。施設の行事には家族様にもご参加いただけるように案内しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設周辺は自然が豊かな観光地であり、地元行事や祭事が執り行われていますので、四季折々を感じることのできる楽しみがあります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設で協力頂いている医療機関以外でも希望に添って通院の支援を行っています。	内科・歯科・皮膚科・眼科の定期往診がある。また通院付き添い支援も行っている。看護師は利用者全員の健康状態を把握、往診医と連絡・調整を行い、医師の指示を受け、健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護職員が利用者の健康状態を把握し、体調異変あれば相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携契約を交わしています。又入院や検査に際して主治医の紹介もあります。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為の出来る出来ないの範囲や入院に至る時の事例を参考に契約に際して家族様に説明します。	入所時に、重度化や終末期について口頭説明をしている。現在のところ事例はない。文書化することについて、今後の課題として事業所内で検討中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	宿直担当者や正職員は救急救命訓練を実施しています。非常勤職員については事故事例を元に予防と対処方法の研修を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期の消防訓練の実施の際、通常の避難誘導を訓練しているが様々な災害を想定し、認知症である利用者様に実際に起こりえるかもしれない事例を元に対応する為の具体的な訓練の実施、及び最善の避難方法について検討していく必要がある。	運営規程に非常災害対策を定め、利用者を交えての訓練を年2回行っている。緊急通報機器や屋内消火栓があり、随所に消火弾や消火器が設置されている。現在スプリンクラー設置予定である。飲料水等の備蓄もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	高齢者への尊厳を尊重しながら認知症を配慮して、時には利用者様になじみのある言葉を用いて親しみを込めた声かけを職員に指導している。	利用者個々の文化を尊重、特に、方言については大切にコミュニケーションを図っている。また、研修を重ね、サービスに活かしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	支援のよりよい方法はまずは利用者様にたずねることで見出すことができ協力を得ることができる旨を会議の折々に伝えている。職員個々の理解・実践力に差異はあっても具体的な場面々の事例を検討しあって取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の生活リズムを把握しペースに合わせて、都度たずねながら援助させて頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日中過ごす広間に鏡台を置き身だしなみを意識していただいています。楽しみの一つとして愛用の化粧品などあればを使用いただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設で食材を準備し作っているので、調理方法や食品の扱いをたずねたり、食べたいものを伺っています。野菜の掃除や盛付など職員と一緒にしています。	調理専門職員による調理は利用者に喜ばれている。食材は業務責任者が地場野菜を購入に行き、利用者は準備や盛り付けを手伝う等、事業所が一体となって食事作りを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	決まった食事の時間にかかわらず、個々の長けるタイミングに合わせ全量摂取を目標に(回数に分けるなど)対応しています。嚥下状態によって刻み食やミキサー食など形状を変え個々の嚥下状態に合わせています。体重の変化を主治医に報告し摂取量を加減しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週歯科の往診があり個別に口腔ケアの方法など指導協力いただいています。毎食後の口腔清掃を実施し、おいしく安全に食べられるように毎食前にも嚥下体操などを行い機能低下を予防しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄時間を記録し、次の排泄のタイミングが一目でわかるようにしていますので、オムツを使用されていても便座に座る機会を援助しています。	利用者個々の状態にあったトイレ誘導が行われ細かく排泄チェックが記録されている。	排泄チェック表をもとに、一人ひとりの排泄パターンを把握して、日中だけでもオムツに頼らない工夫を望まれる。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日の飲水量を記録し水分摂取量が減っていないか、毎朝職員会議で送りし確認しています。本人様や家族様と相談し便通が良くなる食べ物など生活習慣を取り入れます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の体調に合わせて、医師の意見を取り入れて毎日入浴することが可能です。	入浴回数を週何回と決めず、一人ひとりの体調や希望に合わせている。朝浴や夜浴介助も行っている。安全安楽に留意し、入浴の快適さが得られるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各個室には介護ベッドを設置し、共有スペースにも簡易折りたたみベッドやくつげるソファ4点あり昼夜問わず休息時に活用しています。各居室にエアコンあり、温度湿度計を見て調節しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員室の所定の場所に薬の説明書を置き職員が確認できるようにしている。服薬変更時医師からの注意事項を含め都度往診記録や送り事項とし必要に応じバイタル測定回数を増やし、様子を記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生きがいのある暮らしを継続してもらう為、盛付や野菜の掃除、洗濯たたみ、繕いものなど職員と一緒に手伝っていただくようにしています。毎日レクリエーションを実施し、参加してもらい気分転換を図っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時期は毎日近隣への散歩を支援しています。行楽目的の遠方への外出は本年度はありませんでしたが、利用者様の体調を見ながら多数名の参加できる機会があれば実施します。受診の為の外出援助は必要に応じ行っています。	気候の良い時は、毎日欠かさず散歩やベランダでの日光・外気浴を行っている。玄関前は坂道の為、歩行にふらつきのある方は車椅子対応をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の要望があり家族様との相談の上、金銭の所持を検討させていただきますが、現時点で実際に所持活用している方はありません。近くに仏閣があるので祭事などのさい銭入れは楽しみごととして行ってる程度です。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様に手紙を書くことを都度、伝え絵葉書など自由に使ってもらえるよう準備しています。家族の了解があれば電話をしていただくようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中利用者様が集う広間には季節感を取り入れ飾るように配慮し、要所々に温度湿度計を設置して対応しています。山間部のため季節折々に鳥や虫など自然の声を耳にすることができます。	長い廊下の途中にはカウチが置かれ、休憩できるよう配慮されている。広い食堂兼居間には季節の花が飾られ、地場の珍しい野菜や名産品が陳列されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者間の関係を意識し合わせてテーブル席の配置を時には移動して気分転換を図ります。ソファなどが多数あり、思い思いのところでゆったりとしたスペースでくつろいでいただいています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみのある家具や家電などの持ち込みを家族様にお願いしています。	居室は広々しており、家族が宿泊できる十分な広さである。清潔で整理整頓され、換気が行き届いている。今まで生活してきたように、新聞・雑誌を講読し続けている利用者もおられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内が広いので各部屋や場所の表記をして迷わない様に工夫しています。要所に手すりや滑り止めがあり安全移動できるように配慮しています。		